

指定管理者評価シート

事業名	子ども劇場管理運営	所管課(電話番号)	子ども未来局子ども育成部 子どもの権利推進課(211-2942)
-----	-----------	-----------	-------------------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市こどもの劇場 やまびこ座	所在地	東区北27条東15丁目1-1
開設時期	昭和63年(1988年)6月	延床面積	1495.37㎡
目的	人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他活動に資する。		
事業概要	人形劇等の制作・発表の場の提供、人形劇等の制作に関する指導ならびに資料収集・提供情報、講演会・展示会・講座		
主要施設	ホール、会議室(1室)、研修室(1室)、美術工作室(1室)、ロビー・展示室		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	令和5(2023年)4月1日～令和10年(2028年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由: 札幌市こどもの劇場「やまびこ座」は、全国でも数少ない子ども専用劇場として、子どもを対象とした人形劇、児童劇等を専門に取り扱う施設であるという特殊性から、指定管理者には貸館業務にとどまらず、人形の制作や操作から、脚本、演出に至るまでの専門的知識や豊富な経験を有する適正な人材を確保し、指定管理者自らが人形劇、児童劇等の制作及び発表を行うこと、並びに担い手である制作団体を育成することが求められ、特に担い手の育成については専門性と継続した取組が不可欠であるため。		
指定単位	施設数: 1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、事業の計画・実施業務、施設の使用承認業務等		
3 評価単位	施設数: 1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和7年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 『豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ』 札幌市こどもの劇場やまびこ座は、「人形劇、児童劇などの制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること」を目的に設置された施設である。 全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇や演劇などに親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い、運営を行うことを基本方針として策定した。 ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 人形劇や演劇等、子どもたちのために舞台表現活動を行う団体に対しては幅広く受け入れ、優れた作品を上演できるよう支援を行った。劇場職員は、観客である子どもとその家族を温かく迎え入れ、親しみやすい雰囲気を作ると共に、上演する団体の支援者となることに努めた。	・施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。市民にとつての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践することができた。また、当方針を達成するため全職員が意識を1つにして、親しみやすい劇場作りに努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 施設の設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。 また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を伴いながらも市民目線のサービスの提供が積極的になされている。 今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。	A	B	C	D				
A	B	C	D								

▽ 地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進 環境行動マニュアルに基づき、環境保全を意識しながら業務を推進した。 環境保全に配慮した行動を職員や利用者に周知し、エネルギー使用量削減の啓発に努めた。 ▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成) ▼ 統括責任者を1名配置した。 ▼ 事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。 ▼ 人材育成 (1)派遣研修(劇場運営関係) 全国人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門知識向上に努めた。 ・人形浄瑠璃ワークショップ対応 職員1名(福島県) 5月31日(土)～6月1日(日)、12月26日(金)～27日(土)、 1月24日(土)～26日(月)、2月28日(土)～3月1日(日)、 3月20日(金・祝)～23日(月) ・砂川人形劇創作体験プログラム 6月11日(水)～3月15日(日) 講師派遣、講師補助 職員1名 ・いいだ人形劇フェスタ2025 8月4日(月)～11日(月) 職員5名 ・こども人形劇フェスティバル in sunagawa 3月20日(金・祝) 職員4名 (2)こどもの劇場・こども人形劇場職員研修 ・こども劇場課職員研修 5月13日(火) 職員10名 ・ハラスメント研修 8月28日(木) 職員10名 ・人形劇ゼミナール(人形劇指導研修)※児童会館部門と共同 4月24日(木)～7月20日(日) 職員2名 ・こどものまなび塾 7月10日(木)～10月30日 職員1名 ・こども文化セミナー 2月11日(水) 職員6名 ・刈払機取扱作業安全衛生教育 6月4日(水) 職員2名 (3)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修 ・コンプライアンス研修 ・職位階層別研修 ・目標管理制度 ・個人情報保護研修 ・評価者研修 ▽ 管理水準の維持向上に向けた取組 ・財団ネットワークシステムを活用した情報共有や都度ごとの担当者会議、定例的な職員会議を実施し、管理水準の向上に努めた。 ・日常業務のブラッシュアップを行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の確認を随時行なった。 ・職員によるプロジェクトを組織し、職員一人ひとりが業務の質を上げ、先見的な方向性を打ち出せる人材の育成を目指した。	・環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道、ガス等)の節約に努め、施設運営を行うことができた。 ・管理業務を適切に行うため、人形劇や児童劇、舞台、照明、音響に係る専門職員をはじめ、管理に係る職員を適正に配置し、組織を確立した運営を行った。 ・職員として専門性を高めるため、児童文化関連施設や各種事業・研修会に職員を派遣し、職員一人ひとりが創造者として利用者と関わるべく多様な場で研鑽に努めた。施設利用者のニーズに応える市民サービスの向上につながったといえる。 ・職員としての意識向上と人材育成の両面から年間方針・重点目標を整理し、全職員で共有する機会を設けたことで、組織としての方向性の理解促進につながった。あわせて、各種取り組みや研修の場を通して文化芸術に関する学びを深めることができ、職員一人ひとりの意識向上や資質向上に一定の成果が見られた。今後も学びを継続し、持続可能な施設運営につなげていく必要がある。 ・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき、各職員の資質向上を目指した研修を実施した。 ・財団内の他部門との情報共有や協働実施を行い、より質の高い事業展開に結びつけることができた。	管理運営組織は適性に確立されており、緊急時の体制も整っている。 子どものための専用劇場という特異な施設であることを念頭においた十分な派遣研修が実施されている。 今後も継続して、職員の資質を向上させ、利用者満足等に反映されるように努めること。
---	--	---

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 下記の業務について再委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。

	業務名	契約業者名	実施月	契約方法
1	清掃業務	東亜産業(株)	通年	指名競争入札
2	機械警備業務	帝国セキュリティ(株)	通年	指名見積合せ
3	自動扉保守点検業務	三和シャッター工業(株)	7・11・3月	随意契約(特命)
4	空調衛生設備保守点検業務	有限会社 ケンブラック	5～8月・1月	随意契約(特命)
5	オーバースライダードア保守点検業務	三和シャッター工業(株)	7・11・3月	随意契約(特命)
6	消防用設備等保守点検業務	(消防用設備)道民防災コンサルタント(株)	4・10月	指名見積合せ
7	舞台吊物及び照明設備保守点検業務	(株)池下電設	7・1月	随意契約(特命)
8	舞台音響設備点検業務	(株)池下電設	7・1月	随意契約(特命)
9	除排雪業務	北三重建(有)	12～2月	指名見積合せ
10	自家用電気工作物保安管理業務	大崎電気管理事務所	通年	随意契約(特命)
11	給水設備保守点検業務	(株)若杉水道	10・2月	指名見積合せ
12	冷温水機及びGHP保守点検業務	パナソニックHVAC&CCシステムズ株式会社	5～7月 10・1月	随意契約(特命)
13	塵芥収集業務	(一財)札幌市環境事業公社	通年	随意契約(特定)
14	建築基準法12条に基づく点検(機械換気)	道民防災コンサルタント(株)	10月	随意契約(少額)

・施設の良好な維持管理のため、事前に承認を得た業務について専門業者への再委託を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
運営協議会(第1回) 10月24日	・令和7年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・事業や運営についての意見集約
運営協議会(第2回) 3月5日	・令和7年度事業報告(下半期) ・セルフモニタリング報告(下半期) ・事業や運営についての意見交換
<協議会委員> 人形劇団代表、児童劇団代表、やまびこ座読み語りの会代表、元北星学園大学文学部教授、青少年育成委員会委員長(劇場所在地域)、札幌市子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、やまびこ座・こぐま座芸術監督	

利用者説明会 12月17日	・施設利用、劇団支援事業について ・公演スケジュール調整 ・各劇団の近況報告
<参加者構成> 利用団体・劇団	

・運営協議会を設置し、委員の方へ事業実施状況などの報告を行い、施設運営についての意見交換を行った。

運営協議会や利用者説明会を実施し、利用者のニーズ把握に努めており、評価できる。引き続き、関係機関との連携を図り、より良い施設運営につなげていくよう努めること。

・利用者説明会は、施設からの連絡事項や今後の劇団支援事業の内容について説明し、各劇団からの近況報告を行った。利用者との相互理解の場とすることができた。

	▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施した。 ▼ 金銭等の取扱いについては、当財団が定める処務規定及び財務規程、金券等取扱要領に基づき、適正に経理事務を行った。 ▼ 当財団の内部監査、公認会計士による外部監査を導入し、会計処理などが適切に行われているかを検査した。 ▽ 要望・苦情対応 ▼ 「迅速・適切・真摯・平等」で「利用者の立場に立つ」対応を心掛けた。 ▼ ご意見・ご要望については職員会議にかけ、迅速に対応した。 (令和7年度については、意見箱への要望・苦情は無し。) ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) ▼ 業務実施に関する記録、帳簿などの整備、記録保管に努めた。(業務日誌、設備点検記録、事業記録、経理書類、現金出納簿など) ▼ 劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けるよう努めた。 <table><tr><td>業務・財務検査</td><td>3月11日</td><td>・業務検査 ・財務検査</td></tr></table>	業務・財務検査	3月11日	・業務検査 ・財務検査	・現金の取扱いについて、複数職員による確認を行い、金銭事故防止に努めた。 ・意見箱へご意見や苦情を受けた場合、職員間で内容を共有して原因分析を即座に行い、苦情の低減に努めるよう体制を整えて備えた。 ・直接いただいたご意見については、職員間で内容を共有して原因分析を即座に行い、市民に対して丁寧な説明を行った。 ・セルフモニタリングにより自己評価を行い、次の事業運営の改善につなげた。 ・札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。	業務・財務検査の結果、記録・帳簿等の整備、保管、事業等の報告について、適正な事務処理がなされていることが確認された。					
業務・財務検査	3月11日	・業務検査 ・財務検査									
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上 ▼ 職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。 ▼ 職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。 ▼ 法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出を行った。 ▼ 職員の勤務形態、家族状況などに応じて年金保険、医療保険に加入した。また、必要に応じて適正に届出などを行った。 ▼ 常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。 ▼ 正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。 ▼ 労災保険加入と、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。 ▼ 法人として全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。	・労働関係法令に関する理解を深めると共に、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及びワークライフバランスの推進を含めた雇用環境の維持向上に努めること。</td></tr></table>	A	B	C	D	労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及びワークライフバランスの推進を含めた雇用環境の維持向上に努めること。			
A	B	C	D								
労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及びワークライフバランスの推進を含めた雇用環境の維持向上に努めること。											

(3)施設・設備等の維持管理業務	総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)	日常的に施設及び設備について機能全般の良好な維持に努め、市民が利用しやすい施設運営を行うことができた。	A	B	C	D															
	▼ 利用者の安全確保を第一に優先し、市民サービスの向上を図った。 ▼ 維持管理計画の下、日常から点検を行い対応を行った。 ▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等) ▼ 第三者委託により実施する業務については、専門業者に依頼し、適切な監督と履行検査を行った。 ▼ 備品管理については、市民の利用に支障がないよう施設内の設備や使用機器類の日常点検や清掃等を行った。 ▼ 施設・設備等の不備や故障については、速やかに修繕を行った。 <修繕の実施> <table><tr><th></th><th>修繕内容</th><th>修繕完了日</th></tr><tr><td>1</td><td>誘導灯バッテリー交換業務</td><td>7月1日</td></tr><tr><td>2</td><td>自動制御機器修繕業務 (ホール系空調設備)</td><td>7月25日</td></tr><tr><td>3</td><td>舞台音響設備UPS用バッテリー交換業務</td><td>1月27日</td></tr><tr><td>4</td><td>車止め修繕業務</td><td>3月27日</td></tr><tr><td>5</td><td>花道コンセント修繕業務</td><td>3月28日</td></tr></table> ▼ 駐車場管理 ・駐車場内での事故などに十分注意し、利用者以外の進入がないよう、車両の監視、誘導等に努めた。 ▼ 外構緑地管理 ・敷地内の植木植栽物は、美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、維持管理を適切に行った。 ▽ 防災 ▼ 防災計画と組織 ・防災計画を定め、自衛消防組織を設置し、有事対応に備えた。 ▼ 防災訓練の実施 ・第1回 12/17(参加7名) 第2回 3/19(参加8名) ▼ 状況に応じた情報収集及び事故発生時の対応 ・関係機関からの情報収集と利用者への正しい情報提供に備えた。 ・事故防止に備えた日常的な訓練等による危機管理体制を整えた。 ・施設賠償保険に加入し不測の事態に備えた。		修繕内容	修繕完了日	1	誘導灯バッテリー交換業務	7月1日	2	自動制御機器修繕業務 (ホール系空調設備)	7月25日	3	舞台音響設備UPS用バッテリー交換業務	1月27日	4	車止め修繕業務	3月27日	5	花道コンセント修繕業務	3月28日	・日常的に施設内外の清掃、環境整備に努めている。 ・市民の利用に支障がないよう、施設内の設備や使用機器類の日常点検や清掃等を行った。 ・軽微な修繕については、札幌市の承認を得て実施した。 ・日常的に、施設利用者に対しても利用上の注意や安全確認について留意するよう促した。 ・日常的に巡回を行い、定期的に枝払いや刈払い、除雪作業等を行い、適切な維持管理を実施した。 ・訓練では、劇場内の消防設備の使用方法や効果的な避難誘導、消火方法、停電発生時の施設内の状況確認、AEDの使用方法を確認し、不測の事態に備えた。 ・舞台公演中の対応についてシートに基づいて職員で確認し、公演を行う劇団とも有事の場合の対応について確認した。	専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。 多くの子どもたちが利用する施設であることを踏まえ、防災研修・訓練等について、引き続き、日頃の備えを行うこと。
	修繕内容	修繕完了日																			
1	誘導灯バッテリー交換業務	7月1日																			
2	自動制御機器修繕業務 (ホール系空調設備)	7月25日																			
3	舞台音響設備UPS用バッテリー交換業務	1月27日																			
4	車止め修繕業務	3月27日																			
5	花道コンセント修繕業務	3月28日																			

(4)事業の計画・実施業務	▽ 児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務		A B C D
	▼ 「文化芸術による社会的包摂機能の推進」をテーマに取り組みを進めた。令和7年度は、これまでの活動に加え、過去3年間で新たに連携を構築した団体との協力により、「インクルーシブ文化祭まぜこぜフェスティバル」を開催することができた。また、障がいの有無に関わらず多様な子どもたちが出演する「北のおぼけ箱」を「いいだ人形劇フェスタ」で上演する機会を得たことで、札幌で継続してきたソーシャルインクルージョン事業および支援人材育成の成果を広く発信することができた。これらの取り組みは、子どもたちの可能性を社会へ示す機会となるとともに、多様性への理解促進やソーシャルインクルージョンの深化につながった。 また、事業の根幹となる人材育成については、現在の札幌の状況を踏まえ、子どもから大人まで幅広い世代を対象に、年代やニーズに応じた取り組みを進めた。市民劇団が継続的に文化活動へ参加できる環境づくりや、それを支える劇場職員の専門性向上、人形劇に携わる市民の裾野拡大に取り組んだことで、文化芸術を担う人材や理解者の育成につながった。こうした積み重ねは、子ども文化を持続的に市民へ提供していくための基盤形成につながっている。一方で、取り組みを継続・発展させていくためには、支援人材のさらなる確保・育成や、連携団体との協働体制の強化、事業成果をより広く市民へ伝えるための発信力向上が課題である。今後も、文化芸術を通じた社会的包摂の実現に向け、継続的な事業展開と人材育成に取り組んでいきたい。	・劇場が市民にとって身近な存在となるよう、鑑賞事業だけでなくワークショップや交流事業など多様なプログラムを実施したことで、子どもから大人まで幅広い世代が日常的に劇場へ足を運び、文化芸術に親しめる環境づくりにつながった。 ・地域の福祉団体、教育機関、市民団体等との協働が進み、「インクルーシブ文化祭まぜこぜフェスティバル」などを通して、多様な人々が交流し相互理解を深める機会を創出することができた。劇場を拠点とした新たな文化交流の輪が広がり、地域との連携強化につながっている。 ・人材育成の取り組みとして、障がいの有無や年齢に関わらず参加しやすい環境整備や支援体制の充実に努めたことで、多様な市民が文化芸術活動に関わる機会を広げることができた。また、市民劇団の活動を通して、文化芸術を支える人材や理解者の育成につながっている。	障がいの有無に関係なく共に創りあげる舞台を通して、関係団体と協働しながら障がい当事者の観劇、参加機会を創出することや、プロ劇団の公演に子どもたちを招待するなど、子どもたちが身近に舞台芸術に親しむ機会を数多く提供し、その成果を発信している点は高く評価できる。 今後も事業成果の発信とともに関係劇団等との連携を図りながら、施設の設置目的達成に寄与する児童劇等の制作を行うこと。

【公演事業】

▼ 継続して実施してきた「舞台手話付き人形劇」に加え、令和7年度は新たに「舞台手話付き児童劇公演」を実施した。札幌で活動する劇団との協働事業として実施したことで、障がいのある方だけでなく、これまで劇場に足を運ぶ機会の少なかった演劇ファンの来場にもつながり、やまびこ座の取り組みや社会的包摂に向けた活動を広く知っていただく機会となった。

また、ブルガリアの専門劇団による「札幌国際人形劇フェスティバル海外特別公演」や、道内プロ劇団による「冬の特別公演」では、近隣の小学校や児童会館の子どもたちを招待した。これにより、人形劇から離れがちな年代の子どもたちや、普段劇場へ足を運ぶ機会の少ない地域の子どもたちに対して、質の高い舞台芸術に触れる機会を提供することができた。

さらに、やまびこ座で開催している人形浄瑠璃講習会の受講生を中心に発足した「さっぽろ人形浄瑠璃あしり座」が令和7年度札幌文化奨励賞を受賞し、記念公演を実施した。「さっぽろ人形浄瑠璃あしり座」は、劇場と協力しながら幅広い年代の市民に体験や観劇の機会を提供しており、地域に根ざした文化の継承と発展に寄与している。今後も、やまびこ座から育った担い手が継続的に活動できるよう支援を行い、市民の関心を高めながら札幌の文化芸術の発展につなげていく。

・劇場が掲げる「共生社会の実現」に向け、舞台手話付き公演や多様な団体との協働事業を継続的に実施したことで、障がいの有無に関わらず誰もが文化芸術に触れられる環境づくりが進んだ。今後も、関係団体との連携をさらに深めながら、多様な市民が参加・鑑賞できる公演事業を継続し、劇場の未来ビジョン実現につなげていく必要がある。

・「さっぽろ人形浄瑠璃あしり座」の札幌文化奨励賞受賞は、やまびこ座が長年取り組んできた人材育成や公演活動の成果を広く周知する機会となり、地域文化の継承と発展への貢献が評価された。

主な公演事業	ページ数(回)	観客数(人)
GW特別企画「あそびの劇場」	5	245
初心者のための人形劇講座 修了記念公演	1	58
人形劇ゼミナール発表会	1	54
こども舞台体験プログラム ふれアートミニ発表会	3	77
障害者等による文化芸術活動推進事業 地域交流プログラム人形浄瑠璃公演	1	21
2025やまびこ座夏まつり	8	520
札幌国際人形劇フェスティバル 海外特別公演	6	718
元町北小3年生 人形劇体験プログラム発表公演	1	232
第54回札幌人形劇祭	6	913
ざ・にんぎょうじょうりゆうクラス 発表会	1	80
人形浄瑠璃講習会・義太夫講習会 発表会	1	82
インクルーシブ公演事業 「舞台手話通訳付き児童劇公演」	4	444
やまびこ座冬の特別公演	3	470
インクルーシブ公演事業 「舞台手話通訳付き人形劇公演」	6	240
やまびこ座遊劇舎発表会	1	111
劇☆やまびこ座YOUTH発表会	1	113
札幌人形劇祭受賞記念公演	1	344
人形劇フェスティバル 2025年さっぽろ冬の祭典【共催公演】	4	629
さっぽろ人形浄瑠璃あしり座公演 【共催公演】	4	724
世界人形劇の日 こども人形劇フェスティバル	2	468

【講座事業】

▼ 市民劇団の育成は、人形劇や児童劇などの子ども文化を継続的に提供していくための基盤づくりにつながっている。令和7年度も、各世代に応じた人形劇・児童劇・人形浄瑠璃の育成事業を実施し、新たに7劇団が誕生した。継続的な育成事業により、市民が文化芸術活動へ主体的に関わる機会を創出するとともに、地域における文化芸術活動の担い手育成につながっている。

また、各種講座や人形劇セミナーを開催し、人形劇創作に関する知識や技術の習得に加え、創作過程におけるグループワークについて学ぶ機会を提供した。講座終了後も、受講者が劇場主催事業への参加や自主公演の実施を目標に活動を継続しており、育成事業が継続的な文化活動へつながっている。今後、受講後の活動継続を支えるため、発表機会の提供や活動支援など、適切なフォロー体制を継続していく必要がある。

さらに、今年度は「専門的な知識を深めたい」という参加者の声を踏まえ、「表現者のためのスキルアップワークショップ」を実施した。子どものための良質な作品創造を目的に、参加者が自身の経験や課題、ニーズに応じて講座を選択できる内容としたことで、個々の表現力や技術力の向上につながるとともに、舞台芸術に対する理解を深める機会となった。

(延べ人数)

主な事業	回数	参加人数
初心者の人形劇講座	14	102
人形浄瑠璃講習会	19	277
義太夫講習会	14	318
表現者のための スキルアップワークショップ	11	142
「砂川人形劇創作体験 プログラム」指導育成事業	26	289

【子どもの舞台表現活動の推進】

▼ 人形劇の裾野を広げる人材育成事業の一環として、小学生から高校生までを対象に、人形劇・児童劇・伝統芸能などの文化体験の機会を創出した。多様な表現に触れ、自ら創作に関わるきっかけとなっている。

人形劇・児童劇では、中高校生が自身の原案やアイデアをもとに作品づくりを行うなど、主体的な創作活動を実施した。講座修了後も仲間とともに継続して創作に取り組む若者も見られ、次世代の表現者育成につながっている。

また、「世界人形劇の日 こども人形劇フェスティバル」を開催し、今年で4年目を迎えた。これまでの市内児童会館に加え、札幌近郊で活動する子ども人形劇団も参加し、異なる環境で活動する年代との交流を通して、新たな刺激と学びの機会となった。

・講座事業と公演事業を連動して実施したことで、受講から創作、発表までの流れが明確となり、参加者が活動の成果や目標を具体的にイメージできる環境づくりにつながった。実際に、講座受講後も自主公演や劇場主催事業への参加を目指して活動を継続する団体・個人が増えており、文化芸術活動への意欲向上や継続的な人材育成につながっている。

・各種講座を通して、創作に必要な知識や技術を段階的に学べる環境が整い、初心者から経験者まで幅広い層が継続的に学べる体制の強化につながった。一方で、継続的な活動を支えるためには、段階に応じた講座内容の充実や、受講後の活動支援のさらなる拡充が課題となっている。

・人形浄瑠璃をはじめとする伝統文化に触れる機会が増えたことで、子どもたちが多様な舞台芸術に親しみ、次世代の担い手が着実に育ちつつある。

・異なる環境で活動する子ども同士の交流が、表現の多様性や新たな発想を生み出すきっかけとなっており、創作活動の広がりや相互の刺激につながっている。

児童文化の普及や子どもの健全育成、担い手の育成に尽力しており、参加者の声も踏まえながら講座内容を構成している点も評価できる。今後も安定的かつ魅力的な公演を提供できるよう、新規劇団の育成に関する支援を継続すること。

子どもが人形劇等の舞台芸術等に触れるきっかけとなる体験プログラム事業において、子どもたちの主体的な創造活動の場を提供し、次世代の担い手を育成していることは高く評価できる。

(延べ人数)

	講座名	回数	参加人数
1	やまびこ座遊劇舎	30	355
2	劇☆やまびこ座YOUTH	36	625
3	ざ・にんぎょうじょうりゆうリユースクラス	17	260
4	こども舞台体験プログラム「ふれアート」	6	70
5	人形劇クラブの指導・育成	114	1,031

【ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の機能を有した文化芸術事業の拡充】

▼ 令和7年度は、支援者・協力者のネットワークを活用した実行委員会を組織し、「インクルーシブ文化祭」として多くの市民を巻き込んだ事業を実施した。障がいのある子どもたちが生き生きと表現する姿を広く発信することで、社会的理解の促進と発信力の向上につながった。実行委員による事前企画やノウハウの共有を通じて、劇場が地域に開かれ、多様な人々が共に文化芸術を楽しむ場として機能している。

これらの取り組みにより、障がいのある子どもたちの表現活動や交流の促進、障がいの有無や年齢等にかかわらず全ての人が共に親しむことができる鑑賞機会の提供が実現し、文化芸術の新たな価値を提示するとともに、ソーシャルインクルージョンの深化に寄与している。また、市民劇団やアーティスト、福祉団体、さらに大学生や社会人などの若い世代との協働を通じて新たな連携体制が構築され、理解者の拡大や将来を担う支援人材の育成という点でも成果が得られている。加えて、これまで劇場を利用する機会の少なかった障がい当事者の観劇・参加機会が着実に増加したことも成果である。

一方で、事業の拡充に伴い関わる人が増えていることから、職員自身も知識や専門性を高め、文化芸術を通じた個々の成長を継続的に支えていく必要がある。

【地域との共生および関係機関との連携】

▼ 長野県飯田市で開催された「いいだ人形劇フェスタ2025」には、人材育成事業で育った「パペットユーススクール」「パペットカレッジ」およびインクルーシブ事業である「パペットアートヴィレッジ」から子どもたちが参加した。これらの子どもたちは、札幌で取り組んできたソーシャルインクルージョン機能を有する文化芸術事業のモデルケースとして、創作人形劇「北のおばけ箱」を上演した。障がいのある子どもとない子どもが共に舞台上立ち、生き生きと表現する姿を全国の観客に発信することで、劇場の可能性や子どもたちの成長・活動の広がりを示す機会となった。

また、やまびこ座の育成事業を契機として結成された「さっぽろ人形浄瑠璃あしり座」は、全国で伝統芝居に取り組む団体との合同公演を実施し、「ざ・にんぎょうじょうりゆうリユースクラス」に参加する中高生も出演した。異なる地域の若手との交流を通じて相互に刺激を受け、伝統芸能の継承や発展について考える貴重な機会となった。

さらに、劇場の機能やノウハウを活用したアウトリーチ事業として、人形劇創作ワークショップを実施した。近隣の元町北小学校および札幌国際大学に劇場職員と市民劇団を派遣し、学校現場や教育機関と連携しながら創作支援を行った。加えて、砂川市のNPO法人「ゆう」からの依頼を受け、人形劇創作体験プログラムへの講師派遣を行い、人形劇文化の裾野拡大にも取り組んだ。

・実行委員会方式の導入や関係団体との連携により、多くの市民が企画段階から運営、当日の参加まで多様な形で関わる事ができ、市民主体の文化事業としての広がりが生まれた。これにより、単なる鑑賞機会の提供にとどまらず、市民一人ひとりが文化芸術の担い手として関与する意識の醸成につながった。

・福祉・教育・文化等の地域関係機関との連携を一層強化し、情報共有や共同企画の機会を増やすことで、インクルーシブな文化体験が特別な機会にとどまらず、日常的に選択・参加できる環境づくりを推進していく必要がある。

・インクルーシブな創作活動で蓄積されたノウハウを体系化し、全国の劇場や教育機関と共有していくことで、地域を越えた文化芸術の広がりや実践の深化に貢献していくことが求められる。

・伝統芸能における若手の活動は全国の関係者からも高い評価を受けており、今後は継続的に学び、実践できる環境づくりをさらに進めることで、次世代の担い手育成につながる仕組みの充実を図っていく必要がある。

実行委員会を組織し、市民主体の文化事業とすることで、ソーシャルインクルージョンの社会的理解につながったと考えられ高く評価できる。

地域との連携に加え、全国の団体とも連携し、人材育成に寄与していることは高く評価できる。引き続き、地域と連携した多くの行事を通じて、子どもから大人までの多くの市民が劇場に集い、地域に開かれた親しみある劇場でありつづけること。

また、地域の町内会や劇場利用団体等と連携して実施している夏まつりについては、実行委員会形式での運営が定着し、地域行事としての認知も広がっている。これにより、劇場をより身近に感じてもらう機会となっている。

【社会貢献事業の取組】

▼ 文化活動を通じた地域コミュニティの再生や地域・施設の活性化を目的として、道内外の文化団体・関係機関との連携強化を図る「広域文化支援ネットワーク形成事業」を実施した。やまびこ座・こぐま座がセンター的役割を担い、広域的な連携のもとで文化活動を展開することで、文化芸術を通じた社会貢献および地域文化の活性化に取り組んでいる。

令和7年度は、5月に両劇場での「ゴールデンウィークチャリティー企画」、帯広市での「ぶれいおん・とかちパペットカー公演」、6月に遠軽町での「人形浄瑠璃遠軽公演」、8月に「One Dreamフェスティバル パペットカー公演」を実施したほか、6月から11月にかけて千歳市学校適応指導教室「おあしす」において人形劇ワークショップを行い、表現活動やグループワークを通じた支援を行った。また、福島県では「高倉人形浄瑠璃座ワークショップ」を継続実施し、東日本大震災の被災者支援として始まった経緯を踏まえつつ、現在は伝統芸能を通じた地域文化の振興や札幌との文化交流を目的とした継続的な取組として展開している。

さらに、昨年度寄贈された「パペットカー」を活用することで、大規模な舞台設備がない地域や施設においても人形劇を届けことが可能となり、文化芸術のアクセシビリティ向上に寄与している。今後もこの特性を生かし、より多様な地域への展開と事業の充実が期待される。

事業実績 別紙業務報告書参照

▽ 子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務

▼ 関係機関の情報収集を行い、資料の整理を随時行った。市民からの要望に応じ、情報提供できる体制を整えた。

▼ 札幌市内及び北海道内における児童文化関係団体や全国の公立劇場、児童文化活動の調査に協力し、調査結果を共有して分析を行った。広い視野に立った子どものための舞台活動の研究に努めた。

・今後も地域の特性を生かし、様々な外部団体や関係機関と協働しながら事業を展開していくとともに、地域の文化拠点として劇場の機能やノウハウを活用した事業を推進し、地域の子どもの健全育成に寄与していく必要がある。

・文化芸術活動を通して社会課題にアプローチすることは劇場の重要な使命の一つであり、多様な人々が文化芸術を享受し参加できる機会を継続的に提供していくことが求められる。やまびこ座・こぐま座の広域的な取組は、文化の街・札幌としての魅力を広く発信する役割も果たしており、地域の文化的発信力の向上につながっている。

・子どもたちの健やかな成長を文化的視点から支えるためには、新たな協力団体や関係機関との連携を一層強化し、ネットワークを拡充していくことが重要である。これにより、個々の取組だけでは対応が難しい課題の解決や、新たな事業展開の創出につなげていく必要がある。

・調査に協力する中で、やまびこ座やこぐま座で人形劇創作活動を行っている劇団や子どもたちの活躍を、さまざまな形で発信することができ、両劇場のPRIにもつながった。

関係団体等の調査や情報収集、資料の公開等、舞台活動の拡充に取り組んでおり、評価できる。

▽ 劇団育成支援に関する業務 ▼ 劇団支援策として「札幌市こどもの劇場支援事業」を実施した。各劇団のホール・研修室・美術工作室・会議室利用について、使用料の一部を負担した。 ※申請件数307件、利用区分件数807件 ・各劇団が劇場を通して交流する機会の提供 ①ゴールデンウィーク特別企画あそびの劇場(5月) ※こぐま座と共同で実施 ②やまびこ座夏まつり(8月) ③インクルーシブ文化祭「まぜこぜフェスティバル2025」(10月) ※こぐま座と共同で実施 ③札幌人形劇祭(11月) ※こぐま座と共同で実施 ④利用者説明会(12月) ・各劇団による自主的な交流企画事業の実施 ①人形劇フェスティバルさっぽろ冬の祭典(2月) 主催: 札幌人形劇協議会 ②人形浄瑠璃2026さっぽろ人形浄瑠璃あしり座公演(2月) 主催: さっぽろ人形浄瑠璃あしり座 ・市民ボランティアの募集育成 ①読み語りの会(登録者数10人) ②ゆび人形ボランティア(登録者数10人)	・劇団の育成、継続的な自主活動の支援のため、今後も支援事業に取り組んでいく。 ・運営協議会、利用者説明会、利用者アンケート等を実施し、劇団側に十分な説明や意見交換を行うことで、施設の利用と協力体制を強化することができた。	子どもたちに魅力的な舞台芸術の鑑賞機会を提供するためにも、劇団育成は極めて重要であることから、劇団と連携しながら、育成支援を継続すること。
▽ 人形劇等に関する指導、相談業務 ▼ 人形劇制作に関する技術的指導ができる職員を配置し、日常的に助言・指導を行える体制を整備することで、継続的な制作支援の充実に努めた。 ▼ 公演時や稽古時には適宜アドバイスをを行い、劇団と協働しながらより良い作品づくりを推進した。また、初心者向け人形劇講座を実施し、より多くの市民が子どもの文化に関わり、担い手として育っていけるよう環境を整えた。	・利用者に対して丁寧に関わることが、制作活動や創作環境の充実につながっている。今後も劇団に対して上演や作品創造に関する助言や支援を継続していくため、指導者および舞台スタッフの育成を一層推進していく必要がある。 ・人材育成事業等の多様なニーズに柔軟かつ的確に対応できるよう、関係機関との連携を強化し、地域における人材発掘および育成の仕組みづくりを進めていく必要がある。	引き続き、やまびこ座にしかない継続性のある専門的な指導に取り組むこと。

	▽ その他、設置目的達成に資する業務 特別事業の実施 ▼いいだ人形劇フェスタ2025派遣交流事業(8月4日～11日) やまびこ座・こぐま座の人材育成事業に参加する小学生から社会人までの人形劇・人形浄瑠璃のメンバーに加え、パペットアートヴィレッジに参加する障がいのある子どもたちも出演した。関係団体の協力や、これまで築いてきた子どもたちとの関係性、保護者の理解、さらに出演者の特性を生かした柔軟な演出等により、作品の完成度が高まり、観劇に訪れた市民からも高い評価を得ることができた。また、共に舞台を創り上げたことによる達成感や充実感が参加者およびスタッフ双方に感じられ、創作活動の意義を再確認する機会となった。さらに、「いいだ人形劇フェスタ」への参加を通じて全国の観客に公演を届けることで、やまびこ座・こぐま座の取組を広く発信し、認知の拡大につながった。 ▼人形劇団派遣交流事業 ・砂川人形劇フェスティバル派遣(3月15日) ▼その他 動画配信 YouTubeで事業の様子を動画配信した。 ・パペットアートヴィレッジおたのしみクリスマスinこぐま座(12月21日)	・札幌の子ども文化の可能性を内外に発信する機会となり、劇場がこれまで担ってきた役割や取組を全国に示すことができた。 ・文化芸術活動を通して社会課題にアプローチすることは劇場の重要な使命の一つであり、今後も多様な人々が文化芸術を享受し、参加できる機会を継続的に提供していく必要がある。 ・市民や社会のニーズに応えつつ、質の高い作品づくりを行うことで、やまびこ座・こぐま座の取組を通じた文化の街・札幌の魅力発信につなげていくことが求められる。	やまびこ座・こぐま座の取り組み、札幌の子ども文化を全国に発信したことは高く評価できる。今後も、魅力的な公演を多く市民に提供することで、児童文化の普及に努めていくことを期待する。																																																																								
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 ▼ 公演回数・観客数 (回・人) <table><tr><td></td><td>R6年度実績</td><td>R7年度計画</td><td>R7年度実績</td></tr><tr><td>上演回数</td><td>202</td><td>200</td><td>212</td></tr><tr><td>出演者数</td><td>7,928</td><td></td><td>7,279</td></tr><tr><td>観客数</td><td>15,229</td><td></td><td>15,057</td></tr><tr><td>上演1回当たりの観客数</td><td>75</td><td></td><td>71</td></tr></table> ▼ 室別利用状況 (件) <table><tr><td></td><td></td><td>R6年度実績</td><td>R7年度計画</td><td>R7年度実績</td></tr><tr><td rowspan="3">ホール</td><td>件数(件)</td><td>615</td><td>650</td><td>654</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>23,157</td><td>28,000</td><td>22,336</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>71.5</td><td>80.0</td><td>76.0</td></tr><tr><td rowspan="3">会議室</td><td>件数(件)</td><td>350</td><td>400</td><td>399</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>2,079</td><td>2,000</td><td>2,222</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>40.7</td><td></td><td>46.4</td></tr><tr><td rowspan="3">研修室</td><td>件数(件)</td><td>419</td><td>500</td><td>439</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>4,784</td><td>7,600</td><td>5,097</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>48.7</td><td></td><td>51.0</td></tr></table>		R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績	上演回数	202	200	212	出演者数	7,928		7,279	観客数	15,229		15,057	上演1回当たりの観客数	75		71			R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績	ホール	件数(件)	615	650	654	人数(人)	23,157	28,000	22,336	稼働率(%)	71.5	80.0	76.0	会議室	件数(件)	350	400	399	人数(人)	2,079	2,000	2,222	稼働率(%)	40.7		46.4	研修室	件数(件)	419	500	439	人数(人)	4,784	7,600	5,097	稼働率(%)	48.7		51.0	・利用率は上がっているものの、上演一回当たりの観客数は前年度を下回った。安定した集客を確保するために市民が再び劇場へ足を運びたいくなるような魅力的な公演や事業を実施し、観劇の機運を高めていく。 ・利用人数は前年度より増加傾向にある。今後とも市民・劇団ともに利用しやすい劇場を目指していく。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">上演回数は計画を上回り実施している点は評価できる。しかし、貸室利用状況についてホールの稼働率や利用人数などが計画を下回る結果となっている。今後も、市民サービスの拡充を図るとともに、公演の魅力の増加や、団体利用の促進など、さらなる利用拡大に努めること。</td></tr></table>	A	B	C	D	上演回数は計画を上回り実施している点は評価できる。しかし、貸室利用状況についてホールの稼働率や利用人数などが計画を下回る結果となっている。今後も、市民サービスの拡充を図るとともに、公演の魅力の増加や、団体利用の促進など、さらなる利用拡大に努めること。			
	R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績																																																																								
上演回数	202	200	212																																																																								
出演者数	7,928		7,279																																																																								
観客数	15,229		15,057																																																																								
上演1回当たりの観客数	75		71																																																																								
		R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績																																																																							
ホール	件数(件)	615	650	654																																																																							
	人数(人)	23,157	28,000	22,336																																																																							
	稼働率(%)	71.5	80.0	76.0																																																																							
会議室	件数(件)	350	400	399																																																																							
	人数(人)	2,079	2,000	2,222																																																																							
	稼働率(%)	40.7		46.4																																																																							
研修室	件数(件)	419	500	439																																																																							
	人数(人)	4,784	7,600	5,097																																																																							
	稼働率(%)	48.7		51.0																																																																							
A	B	C	D																																																																								
上演回数は計画を上回り実施している点は評価できる。しかし、貸室利用状況についてホールの稼働率や利用人数などが計画を下回る結果となっている。今後も、市民サービスの拡充を図るとともに、公演の魅力の増加や、団体利用の促進など、さらなる利用拡大に努めること。																																																																											

	美術工作室	件数(件)	535	550	509	・施設使用承認などについては、条例に基づき、適正に処理を行った。	
		人数(人)	4,663	7,000	4,799		
		稼働率(%)	62.2		59.2		
		ロビー等	人数(人)	18,170	10,000	24,318	
		研修見学	人数(人)	203	400	171	
		合計	件数(件)	1,919	2,100	2,001	
(6)付随業務	▽ 広報業務	人数(人)	53,056	55,000	58,943	・劇場運営において広報活動は不可分の要素であり、デジタル化やSNSの普及が進む中で、従来の手法に加え、新たな広報戦略の構築と発信力の強化が求められている。令和7年度もSNS等を活用し、公演情報や事業案内の発信を適時行った。単なる情報提供にとどまらず、事業成果や活動の意義についても発信できる体制の構築が求められる。	A B C D 利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。
		▽ 不承認0件、取消し0件、減免0件、還付0件					
		▽ 利用促進の取組					
		▼ 主催事業、主催公演の際、他の公演、事業への呼びかけを行い、宣伝等に務めた。					
		・より分かりやすいホームページ運用を行うため独自ドメインを取得し、ウェブアクセシビリティにも配慮した誰もが利用しやすい環境整備を進めた。令和7年度のホームページアクセス数は334,055件(月平均27,838件、日平均915件)となり、安定した情報発信と利用促進が図られている。今後も内容の充実と利便性向上を図り、集客につなげていく必要がある。					
		・公式SNS(Twitter、Facebook、Instagram、X)やLINE公式アカウントを活用し、公演・講座情報の積極的な発信を行うことで利用者の利便性向上と集客につなげた。アンケート結果からも、SNSによる情報取得率が高く、主要な情報発信手段として定着している。					
	▽ 施設ホームページのウェブアクセシビリティの確保	・定期的「こどもの劇場通信」(年6回)や「MA・SO・BO通信」(年6回)をこぐま座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館、近隣小学校等へ配布したほか、公演ごとに来館者へも配布し、情報提供の充実を図った。				・札幌市内及び近郊の児童デイサービス等から観劇に関する問い合わせが増加しており、広域的な利用拡大の兆しが見られる。今後の施設利用促進につなげるため、観劇の魅力や利用方法を分かりやすく伝える案内等、積極的な広報展開が必要である。	
		・公演情報については報道機関への提供やチラシ・ポスターの作成・配布を行い、地下鉄駅や劇場館内への掲示を通じて広く周知を図った。また、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会発行のWEBマガジン「あそぼ」にも公演情報を掲載し、年4回の発信を行った。					
		▽ 引継ぎ業務					
		前回指定管理者から継続指定のため、該当事例なし。					
		・札幌市公式ホームページウェブアクセシビリティの方針に準じて、アクセシビリティの維持・向上に努め、ホームページの更新を行った。					
		・ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを作成した。					

2 自主事業その他				A	B	C	D
▽ 自主事業							
▼ 物品販売事業				・物品販売業務については、前年度の売上額を下回る結果となった。今後は、こぐま座50周年記念グッズの販売をはじめ、来場記念となる魅力的な商品の開発や品揃えの充実を図り、売上向上につなげていく必要がある。			
市民サービスの一環として、ハンドパペットやオリジナルグッズなどの販売を各人形劇公演時に実施した。集客の一助やリピーターの確保などにちなげ、公演の活性化を図った。				・子どもが児童劇及び人形劇等の活動に対して興味を持つ契機となる事業である。引き続き、来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。			
実施期間: 令和7年4月1日～令和8年3月31日							
販売商品:							
①ハンドパペット・指人形、100円ガチャ等: 金額 100円～800円							
【販売実績】							
ハンドパペット・指人形等: 販売個数							
合計: 販売個数 569個 売上額 162,400円							
▼ 飲料販売事業				・飲料販売事業については、物価高騰に伴う1本あたりの単価上昇の影響により、購入数が減少し、前年度の販売本数を約600本下回る結果となった。			
劇場に公演観劇に来られる来館者や、稽古や舞台仕込みで利用される劇団利用者などに対して飲料の清涼飲料水の販売を行い、市民サービスの向上を図った。							
実施期間: 令和7年4月1日～令和8年3月31日							
販売商品: 清涼飲料水120円～180円							
【販売実績】							
販売本数: 清涼飲料水 3,628本							
収入額: 41,752円(使用料、電気代相当額)							
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等				・引き続き、札幌市内の企業及び福祉施設への配慮を行う。			
第三者に対する業務委託、物品の調達などを行うにあたり、札幌市内の企業などを積極的に活用した。							
3 利用者の満足度				A	B	C	D
▽ 利用者アンケートの結果				A	B	C	D
実施方法	観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、令和7年4月～令和8年3月の期間で実施した。※アンケート方法については、来館者にアンケート用紙を配布し回収した。	・全体として高い評価を得ているものの、数値結果のみを捉えるのではなく、その背景にある理由や参加者の意図を丁寧に読み取り、事業改善につなげていく必要がある。また、公演においては、好意的な意見を持つ来場者ほどアンケートに回答する傾向が見られるため、より多様な意見を収集できるよう、回答しやすいタイミングや動線を含めた実施方法の工夫が求められる。		観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。			
	▼観客用アンケート 各公演時において、来館した観客に対し無記名方式のアンケートを配布した。職員の対応および劇場の設備・環境などの設問のほか、観客の年齢層や人数、居住区など回答者についての質問も設けた。また記述形式で、具体的なお芝居の感想や今後見たいお芝居も回答していただいた。			アンケートの結果は、要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。			
	▼利用者(劇団アンケート) 劇場で公演を行った劇団に対し、記名方式(無記入可)のアンケートを実施した。劇団の活動で劇場を利用するに当たり、劇場の使いやすさや職員の対応といったソフト面とハード面の両面について回答していただいた。実際にお芝居を創っていく上での設備や環境、職員の支援体制、手続きの簡便さなどについての質問を設定した。			これは指定管理者の努力の結果であると考えられる。引き続きサービス水準を維持するとともに、施設利用者の意見を把握し、管理運営に活かすこと。			
	▼事業参加者アンケート 事業参加者(受講者)に対し、各事業の終了後に記名方式(無記入可)のアンケートを実施した。事業プログラム内容や講師、担当職員の対応、施設の使いやすさなどについて回答していただいた。						
結果概要	・事業参加者アンケートでは、少人数の参加事業においても全員から回答が得られ、すべての項目で高い評価を得ている。今後もアンケート結果を踏まえ、参加者の声を事業内容に反映し、継続して参加したいと思われる事業の展開を図っていく必要がある。	・職員への対応や説明、サポートに関する評価は全体的に高く、すべてのアンケートで4.5点以上を維持している。職員の人入れ替わりがある施設であることを踏まえ、誰が対応しても一貫して丁寧で親切なサービスが提供できるよう、組織としての意識共有と対応力の維持・向上が求められる。					
	・観客からの要望には、客席の構造など即時対応が難しいものもあるが、公演時間の事前周知や休憩の設定に関する劇団への提案など、観客目線に立った工夫により満足度向上につなげる対応を継続していく必要がある。						

利用者からの意見・要望とその対応	【観客用アンケート】 ▼回収枚数は2,756枚となり、目標(1,200枚)を大きく上回り達成することができた。 ▼回答者の年代は、小学校低学年が21.5%と最も多く、次いで61歳以上17.5%、未就学児(3歳以上)14.5%となり、これら3区分で全体の5割以上を占めていることから、主なターゲットである幼児・小学校低学年の子どもとその家族の来館が定着していることがうかがえる。一方で、昨年度は20～40代が最多であったが本年度は5.3%に留まっており、年代構成の変化が見られる。 ▼公演情報の取得方法では、「友人・知人」(32.9%)が最も多く、「劇場ホームページ」(18.8%)、「ポスター・チラシ」(13.8%)、「劇場通信」(9.7%)が10%前後で続いた。昨年度同様、「劇場通信」よりも「ポスター・チラシ」からの情報取得が多い結果となり、紙媒体の有効性が再確認された。一方、SNS等はいずれも約2%程度にとどまっており、今後の活用余地が大きいと考えられる。劇場HPや劇場通信からの来館者は既存の認知層である可能性が高いため、劇場を知らない子育て世代にも情報が届くよう、SNSフォローの促進を含めたデジタル発信の強化が必要である。 【利用者(劇団)アンケート】 ▼回収枚数は27枚となり、目標(20枚)を達成することができた。今後も劇団の公演実施時を中心にアンケート協力を呼びかけ、継続的な意見収集に努めていく。 ▼支援体制(施設環境・サポート体制)および施設サービス(利用のしやすさ・職員対応)については、引き続き高い評価を得ることができた。特に、施設利用申込方法や手続きに関する項目は5項目中では相対的に最も低い評価ではあるものの、前年度の評価(4.3)を上回り、全項目において4.5点以上を達成した。 【事業別参加者アンケート】 ▼主催事業のうち、講座やワークショップなど計8事業についてアンケートを実施し、119枚を回収した。 ▼劇場に継続的に参加し親しみを持っている参加者からは、総じて高い評価を得ている。一方、初めて事業に参加した参加者からは、実際の体験を通した率直な意見や期待とのギャップに関する客観的な評価も寄せられており、今後の事業運営において改善や企画検討に反映していくことが望まれる。	・事業参加者アンケートでは、少人数の参加事業においても全員から回答が得られ、すべての項目で高い評価を得ている。今後もアンケート結果を踏まえ、参加者の声を事業内容に反映し、継続して参加したいと思われる事業の展開を図っていく必要がある。 ・観客からの要望には、客席の構造など即時対応が難しいものもあるが、公演案内の事前周知やプログラム等、劇団への提案、観客目線に立った工夫により満足度向上につなげる対応を継続していく必要がある。 ・来場者からは全体として高い評価を得ている一方で、未来層へのアプローチが課題である。SNSをはじめとしたデジタル媒体を活用し、劇場の魅力や施設の特徴が伝わる情報発信を強化することで、初めての来場につながる動線づくりを進めていく必要がある。
-------------------------	--	---

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R7計画	R7決算	差 (決算-計画)
収入	77,268	72,290	▲ 4,978
指定管理業務収入	76,918	72,086	▲ 4,832
指定管理費	47,349	48,218	869
利用料金	6,150	6,547	397
その他	23,419	17,321	▲ 6,098
自主事業収入	350	204	▲ 146
支出	77,248	75,211	▲ 2,037
指定管理業務支出	77,119	75,133	▲ 1,986
自主事業支出	129	78	▲ 51
収入-支出	20	▲ 2,921	▲ 2,941
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	20	▲ 2,921	▲ 2,941

▽ 説明

▼ 令和7年度は、貸室利用料金の改定があったが、利用率の低下は見られなかった。利用率が維持されたことにより、利用料金収入は増加した。また、利用に伴う支援事業の支出は増加した。

▼ 助成金事業の一部が不採択となったことに加え、想定を上回る積雪により排雪費用等の支出が増加したため、収支はマイナスとなった。

▼ 令和7年度に引き続き入場料収入は伸び悩んだが、次年度はこぐま座50周年記念事業と連携した事業を積極的に実施するとともに、施設のPR強化と観客動員数の増加を図り、収入増につながる事業を展開していく。

・指定管理業務に係る収支のバランスを考慮し、安定的な運営をしていく。

助成金の一部は不採択となり、計画と比較して決算における収入はマイナスとなったが、予定していた企画内容の変更や維持管理費の節約等の自助努力により支出を抑えることができている。
次年度以降も、観客動員数の増加を図り、収支の改善を行えるよう一層の努力を期待する。

<確認項目> ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持	▼ 当財団は、各事業の実施において常に収支のバランスを把握・管理しており、将来にわたって安定した経営を維持できる健全な財務状況にある。	適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応	▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。 ▼ 情報公開請求はなかった。 ▼ 札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行った。 ▼ 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。	適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
「豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さつぽろ」の基本方針のもと、令和7年度は初心者のための人形劇講座をはじめ、経験者を対象とした表現者のためのスキルアップワークショップの実施など、人材育成事業を中心に取り組みを実施した。また、今年度の重点事業である「いいだ人形劇フェスタ2025への派遣事業（長野県飯田市で開催）」では障がい児とつくる人形劇「北のおばけ箱1」および伝統人形芝居公演「座・競演」の2つの公演企画を実施した。 「座・競演」では国内4座の若手が共演し、刺激を与え合うことで次世代の文化を担う人材の育成を図るとともに交流を深めることができた。2つの公演を通し、長年やまびこ座・こぐま座が取り組んできた人材育成事業やインクルーシブの要素を最大限に活かしたさつぽろの取り組みを全国へ発信することができ、高評価を得る機会となった。 また、令和7年度2つ目の重点事業であるインクルーシブ事業（まぜこぜフェスティバル・手話通訳付き公演等）を、文化庁から受託した「障害者等による文化芸術活動推進事業」として実施した。障がいのある子どもたちがステージ上で主体的に表現する機会を設け、多くの来場者が作品鑑賞や体験型企画に参加した。障がいの有無、国籍、文化的背景、年齢等を問わず、すべての子どもとその家族が楽しめる構成としたことで、参加者一人ひとりが主役となり、多様な個性が混ざり合う新しい文化体験を創出することができた。そのほか、養護学校や特別支援学級での人形劇鑑賞等の文化体験ワークショップを実施した。また、「舞台手話通訳付き公演」として、人形劇、児童劇、人形浄瑠璃に字幕やムーブアラウンド形式の舞台手話通訳をつけた公演を定期的に実施し、健聴者も聴覚障がい者も同じ舞台を共に観劇できる環境を整備した。今後も障がいの有無に関わらず、だれもが楽しめる共生社会の実現に向けた取り組みを推進し、発信していく。 そのほか、さまざまな家庭の事情により劇場に足を運べない子どもたちのために、巡回公演や各種ワークショップを実施し、多くの子どもたちに人形劇等の観劇機会や文化体験機会を提供することができた。また、やまびこ座・こぐま座は「あそび」と「こども文化」の発信だけではなく、「やまびこ座夏まつり」や「かもくま祭」等、地域の関係団体と協働で多角的な事業を展開することで、子どもからおとなまでの幅広い年代の方々がやまびこ座・こぐま座に集い、地域コミュニティ醸成の一翼を担っている。やまびこ座・こぐま座を拠点とし、子どもたちが身近にこども文化に触れることで心豊かに育つことを願い、引き続き取り組みを進めていく。 次年度への懸案事項は、一般公演の観客数の減少である。少子化の影響等が顕著に現れているが、これまでの広報活動だけでは大幅な観客数の増加は見込めないのが現状である。SNS等を利用した広報を含め、さまざまな年代に届く広報活動を模索するとともに観客のニーズ調査を実施し、劇団関係者へ還元していく。あわせて、来場できない子どもたちに対しては、積極的にアウトリーチ活動を行うなど、劇団と一体となり取り組みを進めていく。	基本方針 『豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さつぽろ』 こどもの劇場は、「人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること」（札幌市こども劇場条例）を目的として設置された施設である。全国的にも数少ない子どものための専門劇場として、「子ども文化」を育むことで生み出される人と人のつながりにより、こころ豊かな未来を描くことができる、地域の文化拠点を目指す。 こどもの劇場において子どもたちが文化芸術に触れることで情操豊かに育つことに加え、それを支える市民劇団を育成する中で醸成される地域コミュニティ創造を目指す事業を積極的に展開する。 市民に寄り添う人材育成を事業の根幹に据え、舞台創作を支える専門性に加え、人と人をつなげ導く能力の向上を目指す。「ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）」機能を有した事業展開のレベルアップと収益源の多様化について重点的に戦略立てて進める。 重点取組事項 ① こぐま座50周年事業 「人形とともに子どもたちの夢を紡いだ半世紀」 全国初の公立専門人形劇場として1976年に開館した札幌市こども人形劇場こぐま座は、令和7年度に開館50周年を迎える。これまで、人形劇を通じて子どもたちへ良質な舞台芸術を提供するとともに、人材育成、地域活性化、国際交流の推進など、地域文化の発展に寄与してきた。記念事業では、「人形とともに子どもたちの夢を紡いだ半世紀」をテーマに、「World Children's Puppet Camp in SAPPORO」や韓国劇団ArtStageSAN招へい公演（北海道ツアー）等を実施する。人形劇という世界共通の文化芸術を通じて、国や言語、文化、信条の違いを超えた子どもたちの共同制作を行うことで、多様性理解や国際感覚の育成を図るとともに、相互理解を深める機会を創出する。また、各国文化への理解を通して自国文化の再認識を促し、グローバル社会に対応した人材育成につなげる。さらに、国際交流拠点としての札幌の魅力向上や地域活性化、メディア発信による認知拡大を図り、次世代の担い手育成と国際的ネットワークの強化を目指す。 ② 人材育成事業の継続と指導者・職員養成の強化 人材育成事業は劇場運営の根幹であり、最も重要な柱である。一方で、その人材を育成する指導者・講師・職員の養成が急務となっている。若い世代の積極的な参画や挑戦を促進しながら、次世代の担い手育成と、それを支える指導的人材・運営人材の双方の育成を進め、持続可能な事業運営体制の構築を図る。 ③ インクルーシブ事業の更なる展開と発信強化 インクルーシブ事業は、市民ニーズの高い事業であることが明確となっており、今後はより積極的な展開が求められている。こぐま座50周年記念事業を通し全国へ札幌の取組を発信し、広域的な交流や連携につなげるとともに、地域においても理解と共感を広げるため、身近な発信と丁寧な実践の両立を図っていく。

	④ アウトリーチ事業の拡大 パペットカーを活用した事業展開を中心に、児童会館等との内部連携に加え、外部機関や広域的な関係団体との連携を強化し、多様な地域へ文化芸術を届けていく。また、被災地支援など社会的課題への対応も視野に入れ、文化芸術を通じた社会貢献活動の展開を図る。 ⑤ 業務改善(管理)及び財源確保の推進 令和8年度は、業務の整理と課題の可視化を進め、改善の方向性を明確化することで、実効性のある業務改善につなげていく。また、持続可能な劇場運営に向け、多様な財源確保の可能性についても検討を進める。 ⑥ 外部団体とのネットワーク構築 人形劇・児童劇・伝統芸能を中心とした子ども文化・舞台芸術関係団体とのネットワーク形成を推進する。劇場がハブ機能を担うことで、地域・全国をつなぐ連携や新たな事業創出を図るとともに、共催事業の実施や文化芸術関連組織への加入等を通じてネットワークを拡大し、新たな事業展開や協働の受け皿となる体制を構築していく。
--	---

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
施設の維持管理、貸館業務、事業の実施、自主事業、及び施設の管理運営については全般的に適切な業務の執行がなされている。 こぐま座とともに、インクルーシブな札幌の児童文化を全国へ発信していること、プロ劇団の公演への招待や人材育成事業を通して子どもたちの舞台芸術に触れる機会や子ども達の主体的な創造活動の場の提供などを行っており、子ども達に寄り添った札幌市の児童文化の拠点施設として、その普及・促進に継続的に取り組んでいると評価できる。	施設の設置目的を達成するため、今後とも継続的な人材育成と、若手層の確保、劇場の取り組みの周知・発信に努めること。 劇場に来ることが叶わない子どもたちへの観劇や体験ワークショップの機会をより提供できるよう、パペットカーの活用等によるさらなるアウトリーチ事業の拡充を行うこと。 また、今後も経費節約に努めるとともに公演事業等の拡充に取り組むことで安定した管理運営を図ること。